

# 第2回大学地域連携強化プラン懇話会

## 草津版アーバンデザインセンター (UDC) の概要 (案) について

1

平成27年11月5日

草津市総合政策部草津未来研究所

# 全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力ある実施プログラムの検討

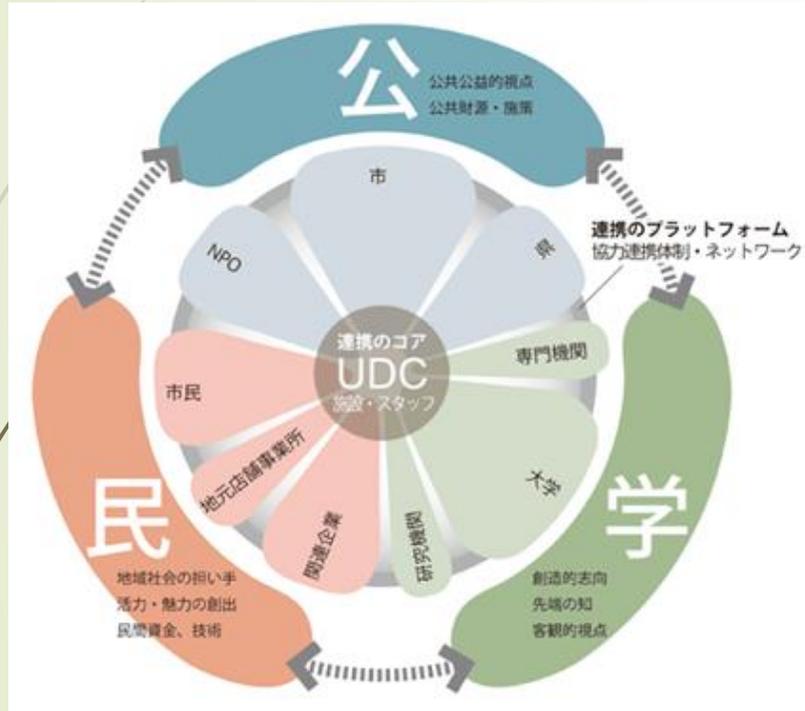
拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

# アーバンデザインとは？

- ▶ 都市空間（アーバンスペース）は、多くの建築物、道路、樹木、街灯やベンチなどによって構成されています。また、市街地だけでなく、その周辺の田園や緑地も、都市空間を支える重要な構成要素です。
- ▶ その空間には歴史があり、複合化した地域の課題があり、人々の活動があり、そして、未来への可能性が広がっています。
- ▶ アーバンデザインでは、地域の歴史や現状を知り、地域の個々の課題を構造化し、地域の複合的な課題として捉えたうえで、未来のまちのイメージについてみんなで話し合い、共有します。そうして、未来を創造するための新たな活動を産みだし、人々のニーズにあった都市空間をデザインすることです。

# アーバンデザインセンター（UDC）とは？



## アーバンデザインセンターとは

- 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム
- 「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的にまちに応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担う。
- 公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、まちを創造する拠点

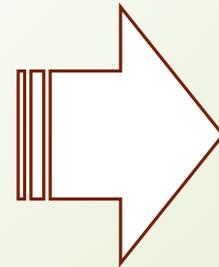
# アーバンデザインセンターの目的

- ▶ 地域を知り、お互いを知ること
  - ▶ 過去の庶民の暮らしの工夫や知恵を再発見すること
  - ▶ 地域の現在の状況及び課題を可能な限り把握すること
  - ▶ 個別の課題群を構造化し、複合化した課題として認識すること
  - ▶ 活動を通じてお互いを知り合うこと
- ▶ 未来のまちのイメージを共有すること
  - ▶ 中長期的な視点を獲得すること
  - ▶ バックキャストイングにより将来へのインパクトが大きい課題を明確にすること
  - ▶ ステークホルダー間の利害を調整すること
- ▶ 新たな活動を創出すること
  - ▶ 新たな活動の可能性を見出すこと
  - ▶ 未来のまちを創造する萌芽的活動を支援すること
  - ▶ 指標等を参照しながら、互いの活動の強度を調整すること

地域を知る  
互いを知る



イメージの  
共有



新たな活動  
の創出

# 草津版アーバンデザインセンターの役割①

- アーバンデザインのイメージの共有
  - アーバンデザインを共有するためのプログラム開発

地域を知る  
互いを知る

イメージの  
共有

新たな活動  
の創出

(学習・交流)  
地域を知るためのワークショップ

- (調査研究)
- ・各種統計データ等の収集
  - ・市政等の説明、解説
  - ・市民意識調査
  - ・課題の抽出・構造化

(学習・交流)

- ・未来のまちを考えるワークショップ
  - ・ワールド・カフェ
  - ・シナリオ・ワークショップ
  - ・コンセンサス会議 等

(調査研究)

- ・合意形成プロセスの研究など

(社会実験)

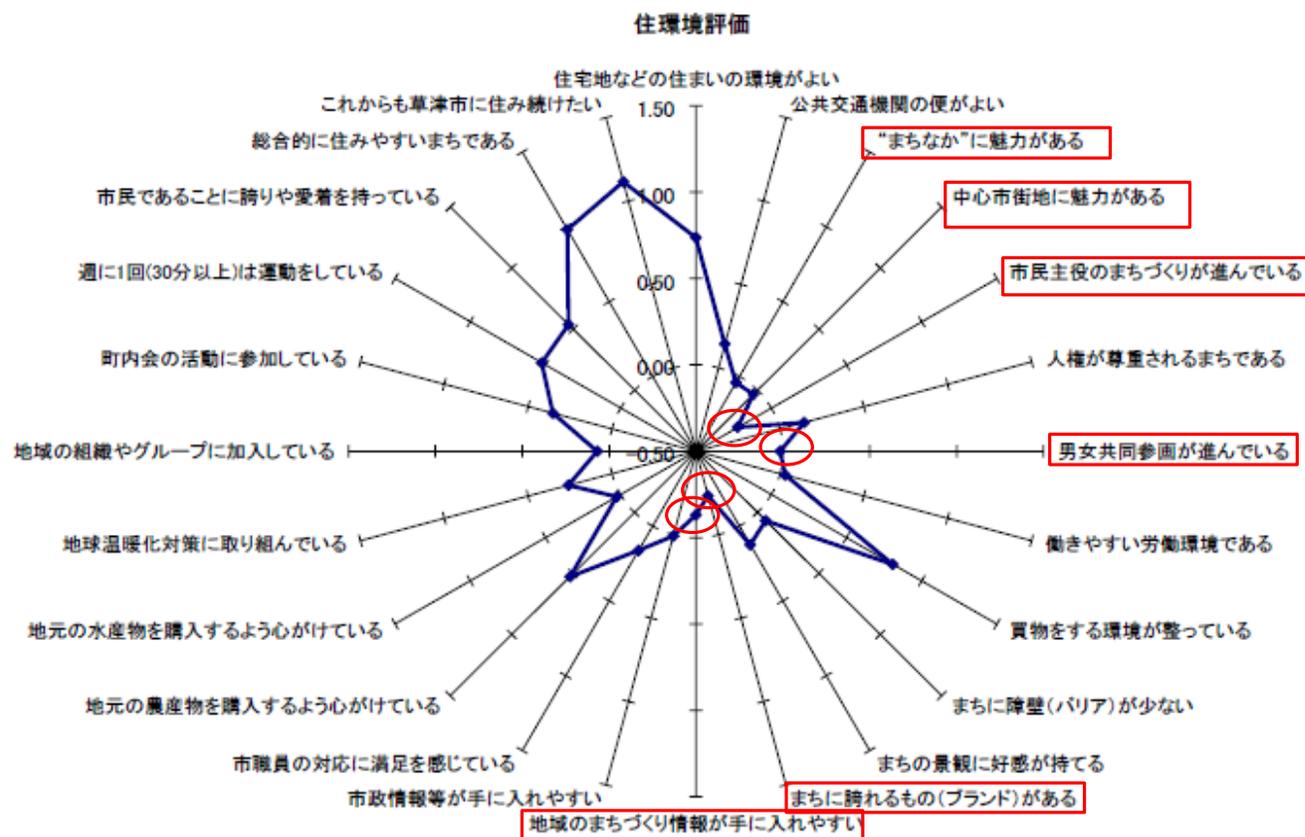
- ・ワークショップ等の提案を実施

(調査研究)

- ・市民活動に関する調査研究など

# (参考) H26年度市民意識調査結果

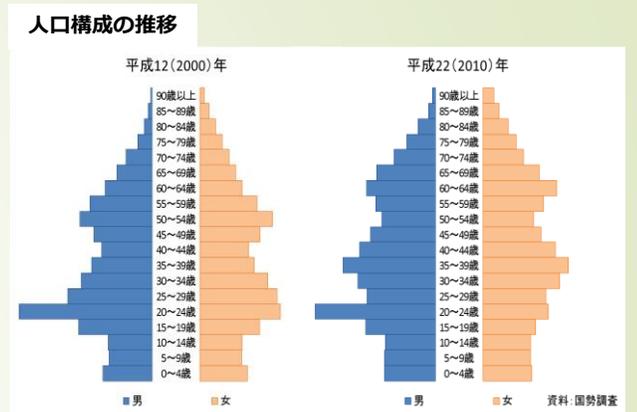
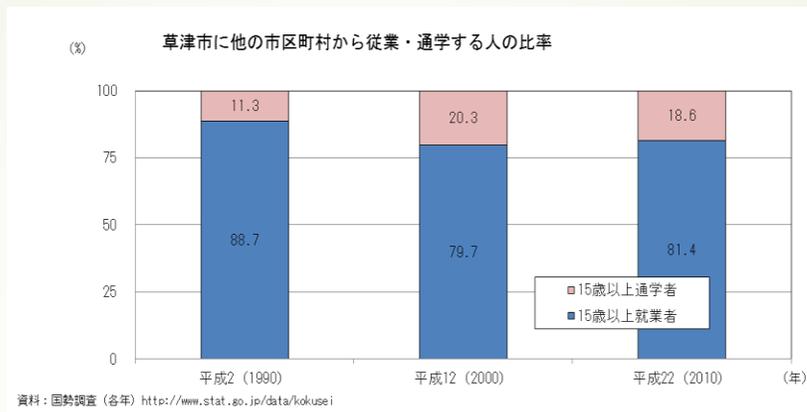
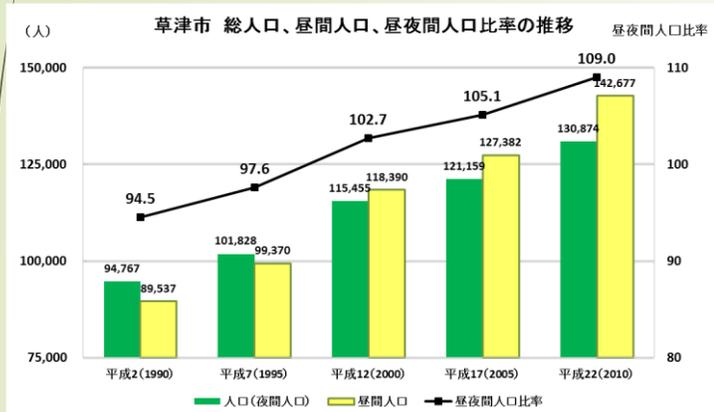
住環境評価 (加重平均)



- 住環境評価では、「まちに誇れるもの(ブランド)がある」「市民主役のまちづくりが進んでいる」「地域のまちづくり情報が手に入れやすい」「"まちなか"に魅力がある」「中心市街地に魅力がある」「男女共同参画が進んでいる」の6つがマイナスである。

- 特に「まちに誇れるもの(ブランド)がある」「市民主役のまちづくりが進んでいる」「地域のまちづくり情報が手に入れやすい」が低くなっている。

# (参考) 草津市の人口動態・構成



## 草津市への流入

総数 45,437人  
(平成22年10月1日、国勢調査)



- 昼夜間人口比率が1.09であり、昼間の方が人口が多い。
- 流入人口は約45,000人であり、約8割は就業者である。
- 流入人口は約7割が県内市他市であり、隣接の大津市、守山市、栗東市のみで約5割を占める。
- 昼間人口の1割が学生であり、学生は県外が多い。
- 草津市に住みたくなる魅力ある活動の場を提供すること
- 通学者が卒業後も住み続けたいと思う活動の場、または関西圏に戻ってきたときに再び草津を選択していただける思い出を作る場の提供

## 草津版アーバンデザインセンターの役割②

- アーバンデザインのイメージの共有
  - アーバンデザインを共有するためのプログラム開発
- 連携・交流の場の提供
  - 就業・通学者、単身赴任者、下宿生等と居住者との交流の機会創出
- 萌芽的活動の支援
  - 萌芽的活動を支援（社会実験）し、既存支援活動体に切れ目なく接続
- 情報発信
  - 地域のまちづくりに関連する情報の発信
- 女性の参画
  - 政策決定プロセスへの女性の意見、及び参画

# 草津版UDCの機能（案）

	UDCK 柏の葉アーバンデザイン センター	UDCM 松山アーバンデザイン センター	UDCIC アイランドシティ・ アーバンデザインセンター	草津版（案）
所管課	柏市企画部 企画調整課	松山市都市整備部 都市デザイン課	福岡市港湾局 アイランドシティ経営計画部 事業管理課	草津市総合政策部 草津未来研究所
学習・交流	学習・研究・ 提案	交流・学習・ 教育・情報発信	連携・交流の場の創出	連携・交流の場の創出
調査研究		研究・提案	まちのデザインの 研究・提案	アーバンデザインの 調査研究
社会実験	実証実験・ 事業創出	実証実験・ 事業創出	大学や企業による実証 実験・研究	萌芽的活動の支援
情報発信	（言及せず）	（交流・学習・ 教育・情報発信）	情報発信 プロモーション	情報発信
デザイン マネジメント	デザイン マネジメント	デザイン マネジメント	（福岡市港湾局）	まちのイメージの共有
エリア マネジメント	エリア マネジメント	（既存まちづくり団 体）	まちづくり活動の 企画・実施	（既存支援活動体に 切れ目なく接続）

# 全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力あるプログラムの検討

拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

# 他UDCの機能別活動事例①

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりスクール</li> <li>千葉大学 柏の葉カレッジリング・プログラム</li> <li>まちの交流会 Kサロン</li> <li>その他エリア内のイベント参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アーバンデザインスクール</li> <li>アーバンデザイン研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちの学校</li> <li>その他エリア内のイベント、セミナーの企画立案・実施</li> </ul>
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市環境デザインスタジオ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門スタッフの自主研究</li> <li>地元シンクタンクとの共同調査研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリア内のまちのデザイン調査研究・提案、およびまちづくりプラン等の策定・調査研究</li> </ul>
社会実験	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学、企業主体（実証実験というよりプロモーションに近い）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなのひろば」</li> <li>市民、学生の発案を具体化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政主体</li> </ul>
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行</li> <li>拠点施設自体が街中の目立つところにあり、全面ガラス張りで見内部の活動が見えるようになっている。また地域の情報ステーション的な役割を担っている。</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>地元FM愛媛と協力で毎週水曜日にUDCMの取り組み紹介の番組放送</li> </ul>	

## 他のUDCの機能別活動事例②

	UDCK	UDCM	UDCIC
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンであり、開発者がUDCの構成団体として参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既成市街地での公や民による事業に対して助言、指導</li> </ul>	(福岡市港湾局が実施)
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンであり、既存の自治会やまちづくり団体が存在せず、UDC自体が主体</li> </ul>	(旧市街地のため、まちづくり関係団体が存在)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニュータウンであり、既存の自治会やまちづくり団体が存在せず、UDC自体が主体。</li> </ul>

### ・デザインマネジメント

景観形成の方向性を共有し、地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導をマネジメントする。

### ・エリアマネジメント

様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、地域の持続的な活動を支援する。

また、様々なプログラムを企画・連携させ、地域が主体となって地域の価値を創造・維持・発展させる、自律するマネジメントを行う。

# 学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ①

(学習・交流)

- ▶ まちづくりスクール
  - ▶ UDCK主催
  - ▶ まちづくりの担い手育成プログラム
  - ▶ 前期・後期 2回開講 全5回の連続講座 メンバー固定 有料(3000円)
  
- ▶ 千葉大学 柏の葉カレッジリング・プログラム
  - ▶ 千葉大学が提供するプログラム
  - ▶ 「健康」「農」「食」の3コース
  - ▶ 前期・後期 2回開講 6回/コース

# 学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ②

- ▶ まちの交流会 Kサロン
  - ▶ UDCK主催
  - ▶ ゲストスピーカーを招き、交流
  - ▶ 月1回 予約不要 有料(3000円) 差し入れ持込み自由 予約不要
- ▶ その他エリア内各種イベントの主催、共催、参加等

(調査研究)

- ▶ 都市環境デザインスタジオ
  - ▶ 東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学の4大学共同
  - ▶ 各大学の大学院の授業をUDCKで開講
  - ▶ 行政や企業・市民とのオープンな議論を行うため、授業は公開

# 学習・交流・調査研究の事例 (UDCMの場合)

## (学習・交流)

- アーバンデザインスクール
  - UDCM主催
  - まちづくりの担い手育成、及びまちのファンづくり
  - 全20回連続講座(1年) メンバー固定 無料
  - 運営: 愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学の協同運営
  - 講師: 大学教員、商店主、NPO、まちづくり組織、企業家など、実際にそれぞれの分野でご活躍をされている方
- アーバンデザイン研究会
  - アーバンデザインの手法を学ぶ
  - 開催不定期 都度参加者募集
  - プログラム
    - ①ゲストの講演、②学識経験者とのトークセッション、③研究者による研究発表、④意見交換

## (調査研究)

- 専門職員、及び構成団体等による共同調査研究

# 学習・交流・調査研究の事例 (UDCICの場合)

## (学習・交流)

- ▶ まちの学校
  - ▶ UDCIC主催
  - ▶ まちづくりの担い手育成プログラム
  - ▶ メンバー登録制 ただし、イベントは先着申込制
  - ▶ 1回/二か月の頻度でイベント、セミナー実施
- ▶ その他エリア内での各種イベント実施

## (調査研究)

- ▶ まちのデザインの調査研究・提案
- ▶ まちづくり活動の調査研究

# 草津版UDCの実施プログラム（案） 1/2

	地域を知る	イメージを共有する	活動を産む
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会</li> <li>・市政等説明会</li> <li>・地域探検ツアー</li> <li>・個人史会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ</li> <li>・未来のジオラマづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーバンデザインスクール</li> <li>・アーバンデザイン研究会</li> </ul>
	大学、企業、市民による各種セミナー、イベントの実施		
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーバンデザインに関する調査研究 (例)</li> <li>・人口動態を反映した未来のシミュレーション</li> <li>・ワンルームマンションの空き部屋活用策の検討</li> <li>・市民を対象としたアーバンデザインに関するアンケート調査・グループインタビュー</li> </ul>		
社会実験	<p>「アーバンデザイン」、「食と農」、「健康」、「子育て」の4テーマについて、市民、企業（新製品やサービス等の市場調査）、大学等の提案に対して、助成、及び支援を行う。</p>		
	市民、企業、大学提案による社会実験		

# 草津版UDCの実施プログラム（案） 2/2

	地域を知る	イメージを共有する	活動を産む
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行 （・ 拠点施設自体が街中の目立つところであり、ガラス張りで内部の活動が見える。また地域の情報ステーション的な役割を担う）</li> </ul>		
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景観形成の方向性を共有し、都市計画部と連携して地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導を行う。</li> </ul>		
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学習・交流」「社会実験」等を通じ、様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、持続的な活動になった時点で、まちづくり協働部、まちづくり協議会、商工会議所等と連携して切れ目なく繋がるプラットフォーム機能を提供する。</li> </ul>		

# 全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力あるプログラムの検討

拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

## 拠点事例

	UDCK	UDCM	UDCIC
所有	東京大学フューチャーセンター施設利用 (無償で賃貸)	空き店舗改修・賃貸(期間限定)	福岡市港湾局より無償貸与 (民間ビルを市が賃貸)
立地	柏の葉キャンパス駅西口駅前	松山市駅から徒歩8分 松山を代表する商店街近く	ニュータウン玄関 バス停前
建物概要	東京大学フューチャーセンター1階部分 (公開空地隣接)	1階及び2階(広場前)	福岡ビジネス創造センター 1階ギャラリー部分(公園前)
面積	部屋面積 150m <sup>2</sup> 事務スペース等 70m <sup>2</sup> ホールスペース 85m <sup>2</sup> トイレは館内施設利用	1階 交流スペース100m <sup>2</sup> 2階 事務スペース80m <sup>2</sup> 多目的トイレ含まず	ミーティングスペース 約50m <sup>2</sup> まちの本棚 約60m <sup>2</sup> 情報コーナー 約40 事務局 約20m <sup>2</sup>
開館時間	開館日時：月曜～土曜 10:00～19:00 休館日：日曜・祝日・年末年始	開館日時：月曜～金曜 10:00～20:00 土曜・日曜・祝日 10:00～18:00 休館日：年末年始	開館日時：月曜～金曜 10:00～17:00 休館日：土日曜・祝日・年末年始
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3代目施設</li> <li>・周辺に関連施設多数あり</li> <li>・施設内は飲食自由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の前に「みんなのひろば」あり</li> <li>・施設内は飲食自由</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの本棚に図書約2,000冊</li> <li>・情報コーナーに模型(3m×2m)、資料</li> <li>・施設内にホールあり、ホールとUDCICは可動壁で仕切られているため、2室繋げて大きく使用することが可能。</li> <li>・目の前は公園</li> <li>・施設内は飲食自由</li> </ul>

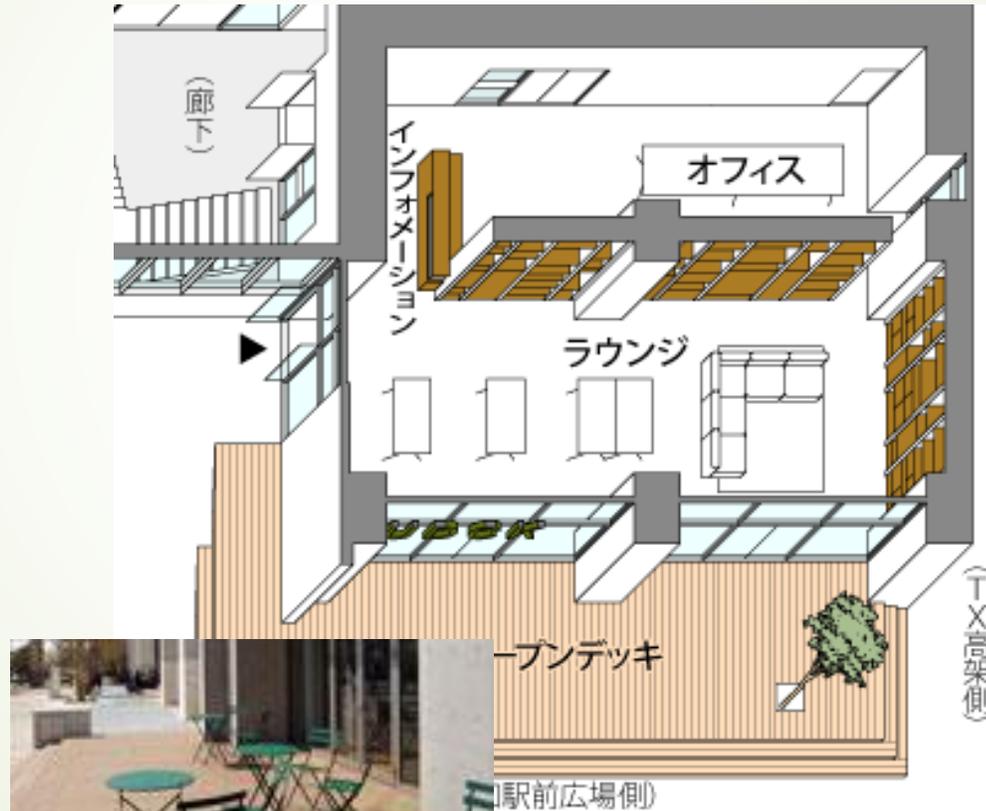
# 拠点事例 (UDCK) 外観



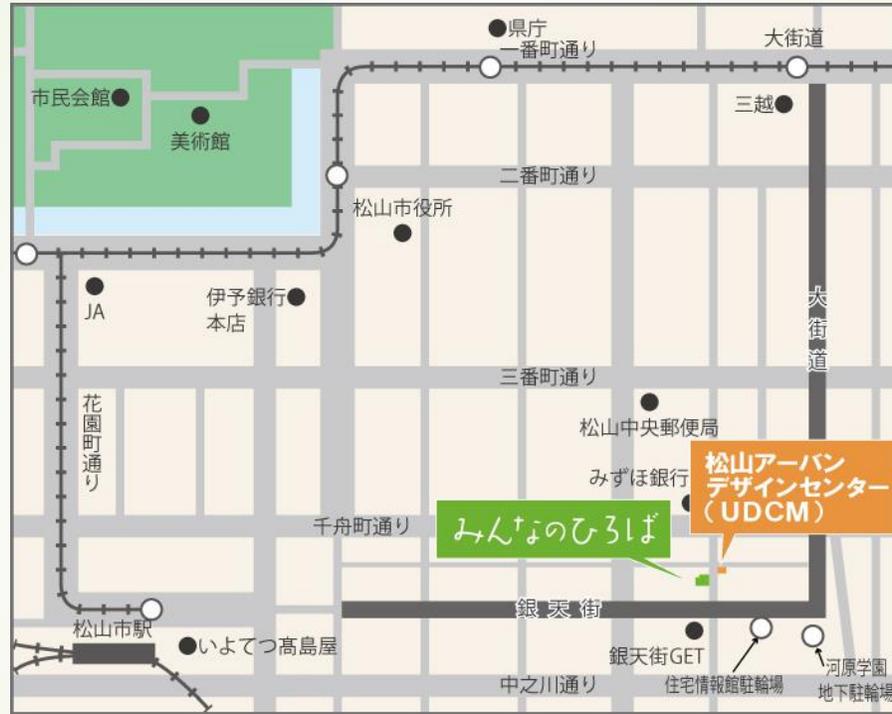
<http://www.udck.jp/>



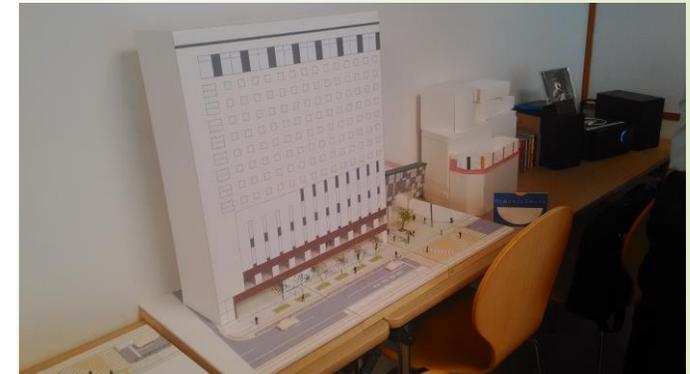
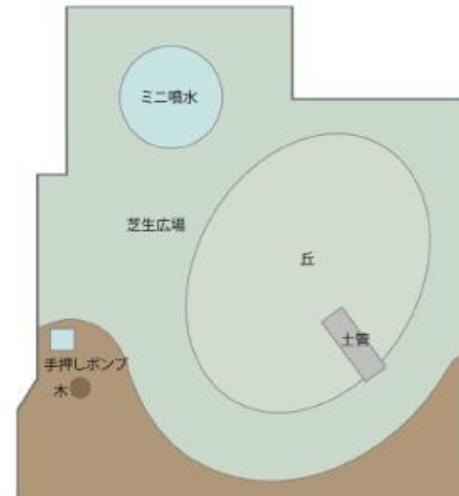
# 拠点事例 (UDCK) 内観



# 拠点事例 (UDCM) 外観



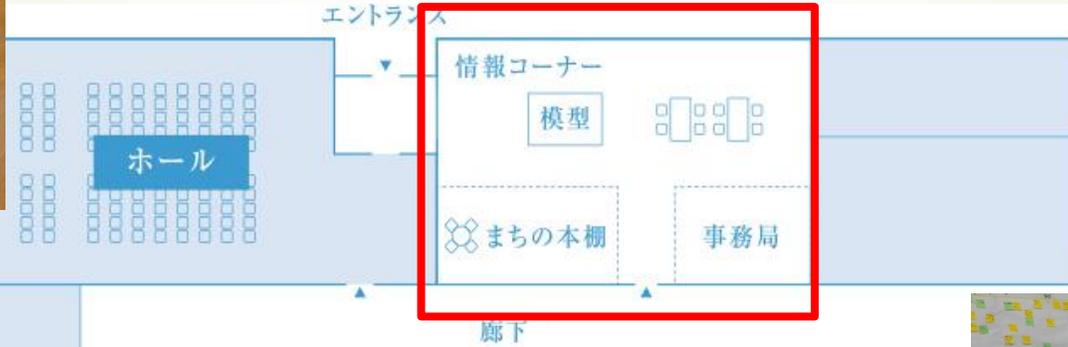
# 拠点事例 (UDCM) 内観



# 拠点事例 (UDCIC) 外観



# 拠点事例（UDCIC）内観



# 既存拠点施設の特長

<b>外観 (周辺環境)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 駅前や商店街の近く、ニュータウンのランドマークビル内などその地域では人通りの多い道路に面したビルの1階にある。</li><li>・ 公園や広場などの近くにある。</li><li>・ 建物は全面ガラス張りで、外から内部が見えるようになっている。</li><li>・ UDCのロゴが目立つところにあり、遠くからでもわかる (K,CI)</li></ul>
<b>内観 (設備等)</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 多目的ホールとして設計されている。</li><li>・ 机や椅子は自由に移動できるようになっている。</li><li>・ ホワイトボードやプロジェクターなどが常備されている。</li><li>・ 自らポトラッチ（飲食物を持ち寄って交流）を主催するなど飲食の持ち込みが自由である。</li><li>・ マイクロライブラリー（まちの小さな図書館）が併設されている。(K,CI)</li><li>・ まちの情報ステーション的な機能も兼ねている</li><li>・ ソファ等くつろぎのスペースがある (K)</li><li>・ 広場が目の前にあるため、多目的トイレ設置 (M)</li></ul>
<b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ UDC Kは三代目の建屋、UDC Mは移転が予定されているなど状況に合わせて柔軟に対応している。</li></ul>

# 拠点を検討する上での条件①

## 外観 (周辺環境)

- 南草津駅前の人通りの多い道路に面したビルの1階が望ましい  
(地図の枠内)
- 公園や広場などの近くが望ましい
- 建物はガラス張りで、外から内部が見える

## 内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計する
- 机や椅子は自由に移動できる
- ホワイトボードやプロジェクターなどが常備する
- 飲食の持ち込みを可とする(小さなカフェ機能)
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねる
- 子育て世帯が多い地域のため、プレイルーム的な機能を持たせる
- バス待ちなど学生や社会人の待機場所としても活用する
- 無線WiFi、PC及びスマホ用電源を整備する

# 拠点を検討する上での条件②



(堀江尚子委員、一ノ瀬明希子さん写真提供)

# 全体の流れ

草津版アーバンデザインセンターの役割と機能

魅力あるプログラムの検討

拠点整備の考え方

草津版UDCの運営体制等

# 草津版UDCの運営体制（案）

（監理運営組織）

会長  
副会長

委員

計  
15名

構成団体

- まちづくり協議会連合会（1名）
- 草津商工会議所（1名）
- 草津市コミュニティ事業団（1名）
- パナソニック アプライアンス社（1名）
- 滋賀銀行（1名）

民

- 立命館大学（2名）
- 京都橘大学（1名）
- 滋賀大学（1名）
- 成安造形大学（1名）

学

- 草津市（5名）

公

（執行組織） = 連携のコア

センター長

各プログラムを統括し、全体のアーバンデザインについて指示調整等を行う

副センター長

プロジェクトアドバイザー

プログラムごとに専門的観点から指導・助言を行う。

シニアディレクター

建築、公共空間、アート、祭り、スポーツ、産業技術等、各担当における企画・調整・連携を図りながら、事業執行を担う。

ディレクター

各プログラム（セミナー、ワークショップ、社会実験等）

# 今後の予定

	開催予定年月日	協議内容
第3回	平成28年1月	<ul style="list-style-type: none"><li>• 草津版UDCの組織体制</li><li>• 草津版UDCが取り組むプログラム（2）</li><li>• スケジュール</li></ul>
（第4回）	—	—